

# 新むつ小川原株式会社 第18回経営諮問会議 議事次第

日時： 2018年5月14日（月） 13時～14時15分

場所： 経団連会館5階 ルビールーム

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 榊原座長挨拶
4. 経営概況報告
  - (1) 2017年度決算見込み
  - (2) 2018年度事業計画
  - (3) 2017年度誘致活動実績
  - (4) 2018年度誘致活動計画
  - (5) むつ小川原開発地区における各種施設の整備
5. 意見交換
6. 閉会

(出席委員等名簿)

座長	榊原定征（日本経済団体連合会会長）
座長代理	秋池玲子（ポストン コンサルティング グループ シニア・パートナー&マネージング・ディレクター）
委員	遠藤哲哉（青森公立大学教授）
	〈欠〉杉本康雄（青森経済同友会代表幹事）
	戸田衛（六ヶ所村長）
	浜谷哲（青森県経営者協会会長）
	三村申吾（青森県知事）
	毛利信二（国土交通事務次官）
	柳正憲（㈱日本政策投資銀行代表取締役社長）
	若井敬一郎（青森県商工会議所連合会会長）

(新むつ小川原株式会社)

代表取締役社長	薄井充裕
常務取締役	三上雄二
取締役	岸本稔
監査役	川俣尚高

2018年5月14日

## 第18回経営諮問会議 報告

新むつ小川原株式会社  
代表取締役社長 薄井充裕

### 第18回経営諮問会議 報告

新むつ小川原株式会社第18回経営諮問会議が5月14日(月)経団連会館で開催されました。その概要につきましては以下のとおりです。

#### 報告事項

1. 2017年度決算見込み
2. 2018年度事業計画
3. 2017年度誘致活動実績
4. 2018年度誘致活動計画
5. むつ小川原開発地区における各種施設の整備

これに対しまして、各委員から以下のとおり意見・助言を受けました。

1. 国、青森県、六ヶ所村、青森県財界をはじめとするご関係の皆様には、日頃より、新むつ小川原株式会社への多大な支援、協力をいただいていること、改めて御礼申し上げる。  
むつ小川原開発地区は、原子燃料サイクル施設、国家石油備蓄基地、さらには全国でも有数の再生可能エネルギー施設を擁するわが国の最も代表的なエネルギー拠点である。また、核融合関連施設や青森県量子科学センターをはじめとする研究開発施設の立地も進んでおり、未来の日本を支えるエネルギー・イノベーションを牽引する中枢の機能を有する重要拠点と位置づけられるのではないかと考えている。  
新むつ会社には、国、青森県、六ヶ所村、日本政策投資銀行の支援、協力をいただきながら、今後もしっかりとした経営を進めていただきたい。経団連としても、当地区の開発を精一杯支援して参りたいと考えている。  
この経営諮問会議では、毎回、委員の皆様から貴重なご意見をいただいている。昨年の経営諮問会議でも、サイエンス・イノベーション・エネルギーといった分野への戦略的な取り組みや、広域連携・人材開発の重要性などについて、大変活発な提案、意見を頂戴した。また、私からは、かねてより「新むつ小川原の経営は安定から拡大、発展にギアチェンジしていくべき」と申しあげてきたところであり、そうした方向で努力いただいていると認識している。
2. ただ今、経営概況について報告いただいた。新むつ小川原株式会社が安定的な経営を維持していることについては、薄井社長をはじめ経営陣の皆様方のご尽力と、委員の皆様方の支援、協力の賜であると深く感謝申し上げます。  
さて、青森県では多くの原子力関連施設が集積しているむつ小川原開発地区の立地環境を活かし、量子科学分野の人材育成、研究開発における活動拠点となる施設として、昨年10月に「青森県量子科学センター」を開設した。量子科学センターにおいては、産学官が連携協力しながら量子科学分野の人材育成活動、研究開発活動を展開していくこ

とにより、多くの若い方々が原子力あるいは放射線に関する実践的かつ高度な知識・技術を習得し、原子力関連産業における雇用促進が図られるとともに、青森県の人づくりや産業づくりにもつながっていくことを期待している。

日本が将来にわたって国民生活や産業・経済を発展させていくためには、原子力関連施設の安全性の向上、原子力の平和利用に貢献する量子科学分野を支える人材の育成、技術力の強化が必要不可欠であると思う。このセンターが世界に貢献する、新たな「科学技術創造圏」形成の一翼を担う施設となるよう努めて参りたい。委員の皆様方の一層のご支援、ご協力をお願いしたい。

また、榊原会長をはじめ委員の皆様には、むつ小川原開発推進のための様々な取り組みに対し引き続きご支援、ご協力を賜るようお願い申し上げたい。

また、新むつ小川原株式会社におかれては、国・県・六ヶ所村及び経済団体と密接な連携と協調の下、更なる分譲の促進と地域振興に尽力するようよろしくお願い申し上げます。

3. 12期連続の黒字と、引き続き安定した経営がなされていることは、薄井社長をはじめ役員、社員の皆様の努力の賜であり深く敬意を表する。

昨年度、経済団体からは、中国・四国経済連合会や県内経済団体等関係者の皆様にむつ小川原開発地区を視察いただき誠にありがとうございました。今後もこのような視察会を契機に、開発地区における企業立地環境等の認識が広がり、新たな企業立地へとつながるよう期待する。

さて、むつ小川原開発地区においては昨年10月に「青森県量子科学センター」が開設し、各種研究や研修が順次行われているところ。また、六ヶ所核融合研究所では昨年12月に東京大学柏キャンパスの核融合実験装置との遠隔実験に成功するなど、各種研究が着実に進んでいるとの報告を受けている。今年度もむつ小川原開発地区で展開されている各種エネルギー事業とともに順調な進展を期待する。

関連する六ヶ所村の動きとしては、本年4月に村の特産品などを販売する施設「六旬館」がオープンした。六旬館は特産品等の販売のみならず、エネルギーパーク等の視察や観光等で訪れる方々の案内窓口として、今後多くの方々の利用を期待している。

懸案となっているホテル誘致については、六ヶ所村宿泊施設誘致研究会で実現可能性を高めるための具体的検討を行っている。日本政策投資銀行や新むつ小川原株式会社から、委員として研究会運営や多くの知見の提供、協力をいただいていることにこの場を借りてお礼を申し上げます。

また、陸上養殖事業について、先般県内事業者にも六ヶ所村を視察いただいた。今後、村としても誘致に向けての協力体制を構築しつつ、支援策等の検討を行って参りたいと考えているので、関係各位の支援、協力をお願い申し上げます。

村は今後も、むつ小川原開発基本計画に沿った産業展開や企業・研究機関の誘致に向けて、インフラ整備やまちづくり施策等に鋭意取り組んで参りたいと考えている。各種施策の着実な実現のためには、皆様方をはじめ六ヶ所協など関係各位の支援と協力が必要であるので、引き続き力添えをお願い申し上げます。

4. 会社の経営状況は今聞いたとおり拡大・発展にむけて順調に推移しており、役職員、関係者の努力の賜であると思う。

昨年度も申し上げたが、むつ小川原開発地区の発展のためにはまずこの地域を知ってもらうことが大事だ。商工会議所連合会は県連七つの市で形成されているが、津軽地区の

方々にとってはまだ今もって日本原燃の施設、東通の原発、大間の原発の問題について理解が進んでいない部分がある。青森県はずいぶん前にエネルギーで国に協力する方向に舵を切ったが、県論が一つにまとまっているわけではない。これからも折を見て津軽地区の人たちへ強力に働きかけ、一緒に現場をよく見ていただく活動をしたい。太陽光発電や風力発電、色々なことで時代の最先端を行っていることも理解いただくことが大事だと思う。認識不足に対し、手伝いできる範囲でぜひ頑張っていきたい。

また、観光の観点からエネルギーツーリズムの話があったが、子どもたちや海外の人にも知ってもらえるようにすべきだ。すでに活動しているのは重々承知しているが、これからも続けていくべきだ。

むつ小川原地区発展の要は世界のプロジェクト ITER、BA に基づく事業を進めることにあると思う。本日の報告にもあったが、新しいスーパーコンピューターが入った。フランスの実験炉を六ヶ所村がしっかり支えていくべきだ。この先原型炉を作らなければいけないが、次のステップとしてその誘致を進めていくべきかと思う。これは国が決心することだが、我々としても強力にバックアップしなければいけないのではないか。

BA の技術を活用した強力な核融合炉、中性子の発生装置が各国の協力のもとに作られているが、日本はブランケット用の新しい材質の開発で世界の最先端に立っていると思う。中性子を使った産業、医療への応用もここから生まれてくると思われるので我々としても十分バックアップするべきだ。

また、ITER の要となるリチウムが大量に必要だ。現在、チリなど色々なところから持ってきているが、使用済みのリチウム燃料を回収・再生する技術が、BA の中で開発されつつある。問題は特許で、実験炉を作るタイミングを見計らって取る。リチウムは世界の最先端で、いま最も世界で必要とされているので、良い仕事になるのではないか。

今国会で審議中だと思うが、間もなく洋上発電政策に対する国の見解が出るだろう。そのときに小川原港をその基地の一つにするのもありかと思う。六ヶ所村はじめ皆様と研究しながら国に働きかける活動も必要ではないか。

5. まず 12 期連続で黒字を達成しているとのこと、堅実な経営について経営陣の努力に敬意を表したい。平成 23 年頃に担当の審議官として現地へ行ったことがあり、この会社、あるいは地域のことについて非常に関心を持っていた。その当時から比べると再生可能エネルギー施設やデータセンターなどの立地が進んでいる。また、賃貸といった利用が急速に伸びており、非常に心強く、関係者の尽力に関しても本当に感謝したい。

国土交通省として二点申し上げたい。一つは基盤整備のことである。

まず港湾、むつ小川原港については二年前の台風で被災したが、その東防波堤について今年度中の完成にむけて整備を進めて参りたい。青森県におかれても航路浚渫（しゅんせつ）を適宜実施していると伺っているところ。道路は交通ネットワーク整備による地域の活性化の観点から、下北半島縦貫道路や、上北自動車道の整備を青森県と一緒に進めている。昨年 11 月には下北半島縦貫道路の吹越バイパスが開通した。上北天間林道路 7.8km についても今年度中のできるだけ早期の開通を目指して鋭意舗装工事等を進めて参りたい。4 月には石井大臣も現地を視察し、引き続き高速交通ネットワークの整備によってアクセスの機能強化を図っていきたい。むつ小川原湖の治水施設の整備については、堤防が完成し、現在、放水路拡張整備に向けた検討を実施しているところである。先ほどの洋上風力については、今国会に新法が提案され、内閣委員会で審議される予定であり、洋上風力発電の計画的な整備に向けた法律と承知しており、成立を見守っていきたい。下水道については六ヶ所村で平成 8 年度から整備を進めており、現時点では進捗 81%。引き続き定住人口の動向を踏まえて支援をしていきたい。

もう一点は、昨年7月に地域の成長発展の基盤整備を目的とした地域未来投資促進法が施行され、地域経済を牽引する企業を3年で全国約2000社支援することを目指している。青森県ではこの制度の基本計画が3月に同意され、これを踏まえて国土交通省で行っている開発推進調査との連携により陸上養殖の誘致について具体的な動きが進んでいると伺っている。大変良いことであり、この制度の活用による更なる企業立地が展開していくことを期待する。

国土交通省としては、引き続き、交通ネットワークの整備・活用を進めるとともに、関係省庁、関係機関と連携しながら、むつ小川原地域の発展に積極的に取り組んでいきたいと考えている。

6. 連続12期の黒字確保に関し、新むつ会社の努力に敬意を表する。

先ほど、他の委員から「いよいよ安定期から成長期だ」と話があった。私からは、そのあたりについて若干触れたい。

今後の成長に向けたキーワードとしては、エネルギー、食糧、観光が挙げられる。

まずエネルギーについては、現在むつ小川原開発地区には原子力、風力、太陽光、石油備蓄等々がほぼフルセットで立地しているが、これから成長が期待できる分野は、やはり水素ではないか。水素の製造に力を入れるのは非常に良い方向だと思っている。官民プロジェクトとして今年の3月に「日本中に水素ステーションを整備しよう」ということになり、トヨタ、岩谷産業、私どもも参加させてもらって一緒に会社を設立した。今後水素ステーションの整備が進めば、水素の需要も増えてくるのが想定されるので、青森に水素の製造基地ができるということは、立地としても適当と考えている。本日の資料を見ると、岩谷産業も当地の視察に来ているようだ。今後とも、水素関連の事業会社をうまく巻き込んでもらいたい。

次は食糧についてだが、先日、東北経済連合会の戦略会議で九州経済連合会から非常に良い提案があった。九州経済連合会が香港等に九州の食糧の輸出に向けた取り組みを進めているが、九州だけでは品数も限られ、出荷の時期が偏るので、ぜひ東北と連携をしたいと言っている。六ヶ所村の産品もその枠組みの中で輸出していく等が考えられるのではないかと。

また、東北経済連合会が2020年のオリンピックに向けて、東北の色々なことを知ってもらう「東北ハウス」を上野に作る構想が出てきた。これもまた当地の観光や産品のアピールに使えるのではないかと思う。

最後はホテル(観光)について、むつ小川原開発地区には核燃サイクルがあるので日本中の電力会社の利用が見込まれる。春から秋は観光客も来るだろうが、冬はどうしても稼働率が下がってしまうので、電力会社の方々に冬の期間に一週間くらい研修所として使ってもらえる等の協力依頼を電事連に働きかける等の方法もあるのではないかと。

いずれにせよ、我々は一生懸命、新むつ会社及び当地の成長・発展を支援していきたい。

7. 一点、エネルギーツーリズムに対してお話し申し上げたい。

先ほど薄井社長からの報告にもあったが、昨年10月にむつ小川原地区視察会にお誘いいただき、ほぼ1日かけて一帯を見て回った。20年ぶりくらいに当地の全貌を見ることができたが、改めて大変素晴らしい観光資源があると実感した次第だ。

海あり、湖あり、広大な農地あり、その中に大型の風力発電、それとまるで湖であるかのようなメガソーラー、石油備蓄タンク、まさに自然の中にエネルギー関連施設が共生しているかのような素晴らしい眺望は、本当に観光資源として第一級のポテンシャルがあると思う。

青森市には、インバウンドはじめ空路、鉄路、大型クルーズ船等海路もあり、青森市を玄関口にして大変多くの観光客がみえている。青森市から六ヶ所までのアクセスは下北縦貫道の整備とともに格段に良くなってきている。以前であれば2時間くらいかかっていたものが、今は1時間ちょっとで六ヶ所まで行ける。観光客誘致の環境が大いに整ってきていると思う。

昨年から六ヶ所村では、エネルギー関連施設を観光資源として活用できないか検討するプロジェクトがスタートしたと聞いている。また当社でも、それに対する支援の取組みが、2018年の計画内容に盛り込まれている。ぜひこのような計画をさらに進めていただき、観光スポットとして知名度を高めていく必要があると思う。

また、下北半島も含めた広域観光の視点で考えると、下北縦貫道の全面開通が早期に実現できれば、一層この地域が皆さんから注目されるのではと思う次第だ。

8. 人材育成が非常に大事だ。青森県内には国立大学、県立大学、公立大学、私立大学、合わせて11の大学がある。様々な分野から専門的な知識が集積し、世界的なネットワークが作られつつあると思う。こういったネットワークを駆使しながら、日本の中でのむっ、それから青森として何ができるのかを真剣に考えるべきではないか。そこに御社の活動する強みがあると思う。

今日、報告があったが、様々な観点からアプローチしていく必要があるだろう。

先ほどエネルギーツーリズムの話も出たが、その強みをさらに活かし、エネルギーツーリズムに絡めて人材育成を図っていくのが良いのではないか。世界の中でもエネルギーの集積地として優位性があるので、日本の特殊性を示すうえで、将来のエネルギーのあり方を提示できるようなエネルギーツーリズムを一層に進めていくと良い。世界に訴えるものに資源を集約しながら取り組んでいくことが非常に大事だ。

それからもう一つ、先ほども発言があったが、エネルギーの安全・平和利用、医療等の応用化学領域に関連づけて積極的にやっていくと良いと思う。量子科学センターが昨年10月に立地した。PET/CT装置等の医療関連施設なども設置されている。近年、医療物理、医学物理分野が台頭してきているそうだが、日本はこの分野が欧米に比べて劣っていると聞く。県内のガン高度医療と連携し、ガンの放射線治療における先端医療開発の研究がここでさらに深められると良いのではないか。こういった観点も人材育成と絡めていくと、世界の中での優位性を高められると思う。

最後に、開発地区内での環境整備だ。都市整備、交通体系の構築は以前から課題となっていた。人材育成はソフト面での問題だが、憩いの場所、しっかり生活できる環境があってはじめて素晴らしいアイディア、イノベーションが起きてくると思う。都市基盤整備、交通基盤と一緒に環境整備をしっかりやっていくことが人材育成には重要だ。県内の大学・研究機関と連携しながら、世界に「ここに人材育成の拠点があるんだ」ということを高く掲げながら進めていただけたら良い。

以上、人材育成の観点から開発を進め、海外や異分野とのネットワーク、研究・経営の地域コミュニティを形成しつつ、御社の経営向上をいっそう進めて、将来の国家新産業創出、国際貢献を目指していただければと思う。

9. 皆様から様々なご意見をいただいた。

まず12期連続の黒字、安定的な経営への評価をいただいたと理解している。こういった中、どうやって成長に転じていくのか。過去を踏まえ、堅実かつ、しかしフェイズを変えていくとはどういうことか、今後また考えを深めていくに当たってのヒント、考えるよすがとなる様々な意見を本日賜った。

エネルギー、イノベーション、観光、食糧というキーワードが出てきていたが、エネルギーについてはこれ自体も医療などのイノベーションにもつながっていく。量子、ITER、リチウムといった、現在、世界中の人が着目していることについて、むつ小川原開発地区からイノベーションを起こしていけるのではないかとご意見を賜ったと思う。その一方で、多くの方に安全性や考え方を理解いただくこともエネルギーの領域では必要なのではないかというご意見、同時に人材を育成していくことが重要だと承った。

皆様の意見を伺いながら感じたことも含めてとなるが、まずは誘致に当たっての競争力についてである。選ぶ方はむつ小川原開発地区一つだけではなく、いくつかを比較して決めていると思う。私も先に見学したが、素晴らしい環境、写真では分からない広がり感や気候のよさも伝わるといいと思っていた。ちょうどビデオを作られたとのことなので、写真のほかにも理解いただく手段が出来たと思う。

環境以外の点では、急いで売らなければいけない不動産のディベロッパーとの違いを競争力の源泉にしうるのではないかと思う。待ってられる、長く持っている体力があるので、例えば環境アセスメントのような手間のかかるプロセス等準備ができることがあれば、他の地域なら3年かかるところ、こちらだったら2年半でできるというようなことはないだろうか。

もう一つ、この地区の優位性は、これだけのスペースがあることだ。白地に絵が描けるのは物流の拠点としては非常に大きい。物流は基地の中そのものの動線の良し悪しによっても効率が変わるし、そこへ入っていくところに隘路があるとひどい渋滞になってしまい、そのことが物流産業の生産性を下げる要因の一つでもあると言われている。そういったことを解消できる物流の拠点が作れる等の点も競争力となりうると思う。

それから、食糧については、よく海外で日本の農産物は大変な人気ということと言われるが、海外でフェアを行って評判が良く「じゃあ1万個送って下さい」と言われると実は対応できないことがあると聞いた。地元で安定的に地道に売っていたものを、多少リスクを取って売らなければいけない場合も出てくる。これはむつ小川原ではなくて地域の話かもしれないが、リスクを取れば失敗することがあり、一方でリスクを取らないと成長もない。そこをこの地域として整理し、考えていく必要があるのではないか。

最後に医療についてだが、先に申したように、気候や環境が魅力的なのだということがうまく伝わるといいと思う。

#### 10. 薄井社長(回答・補足説明)

これほど多岐にわたる議論を短時間にまとめるのはなかなか難しいが、私の感想も含めていくつかご回答差し上げる。

まずは今日、各委員から、道路をはじめとする広域インフラの整備がきわめて重要だのご意見をいただいた。その中には都市整備も含む、その都市整備の中にはホテルも含む、さらには物流拠点の可能性もあるということで、我々ができることは限られているが、広域ネットワーク、特に広域インフラ整備について大変重要だという問題意識が改めてクローズアップされたと思う。

二番目は、そういった中で海あり、湖あり、そして広大な農地ありというご指摘をいただいた。環境と共生しながらインフラ整備を行い、かつそれをほかの地域の方々に見ていただく。その一つの手段としてエネルギーツーリズムがあると感じた。

論点は変わって、私も青森で3年間仕事をさせていただいているが、本当に優秀な方が多い。さらに人材の育成、さらには国際的にも通用する人材育成をやっていかなくてはならないというご指摘を重く受け止め、弊社の社員も含めて一生懸命頑張りたいと思う。

それから短兵急に売るのではなく、今できる準備を怠りなく実施したらどうかという話があった。環境アセスメントなど手間がかかることを事前に調整するということだ。私共の会社ができる前から、むつ小川原開発地区の開発のプランニングは四日市の公害問題等の反省に立って行われているので、環境アセスメントについても先行実施しているところが多くある。また港湾の話も今日あったが、漁業権についても、関係者の大変な努力によって消滅している。よって、洋上風力も適地可能性が高くなっているという点もある。ご指摘を肝に銘じ、今後、できる準備はBCPも含めて整えていきたい。また、競争力の源泉は何かということだが、冒頭、榊原会長からイノベーション、エネルギーについて改めて考えるべしというご指摘をいただいた。中性子のブランケット、リチウムの回収・再生、さらにはその医療への応用、これはイノベーションの最先端だ。合わせて、洋上風力基地、水素はエネルギーの最先端である。こういったものについて、世界、あるいは国の動向を十分に勉強し、遅れないように、できれば一步先行して取り組んで参りたい。

もう一点、経営諮問会議委員についての再任規程についてご報告がある。榊原会長におかれては、5月31日に開催される日本経団連の定時総会で退任され、中西新会長にバトンタッチをされると承っている。このため、経営諮問会議委員並びに座長については中西新会長に交代と承っているが、榊原会長におかれてはこの4年間に亘り、本当に親身にご指導、ご鞭撻を賜った。私、当社の全員より御礼申し上げる。特に、2015年9月、当地ご視察の際には、関係者一人一人のお話に丹念に耳を傾けていただき、また勇気づける多くのお言葉を頂戴した。

さらに、当社の経営についても、「安定から拡大、発展にギアチェンジをしていくべき」と、毎年ご指摘をいただいております。これを肝に銘じて、社員一同大きな励みとして参った。改めて心より御礼申し上げたいと思う。

また、ほかの委員の方々については、本年7月末が任期となっているが、引き続きご就任いただけるようよろしくお願い申し上げます。

最後にまったく事務的な話で恐縮ですが、例年同様、本会議の内容については、経営諮問会議規則により公表することが義務づけられている。発言者の名前は伏せた上で、当社ホームページの上に要旨を掲載させて頂きたい。

もちろん、掲載の内容については、事前に各委員の皆様を確認を頂き、その後ということになるので、お手数をお掛けして大変恐縮ですが、よろしくお願い申し上げます。

また、今日お配りした資料については、6月19日開催予定の定時株主総会までの間は、取扱いについて、配意を賜るよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 11. 榊原会長(閉会挨拶)

今、薄井社長から紹介いただいたとおり、私は今年の5月末をもって、経団連会長の4年間の任期が満了となる。この間、経営諮問会議の座長を務めさせていただき、新むつ小川原株式会社も12年連続黒字達成という隆盛基調の中で、この役を降りられたことは、本当に皆様方の支援のおかげであり、改めて感謝申し上げます。

後任は日立の中西会長でいらっしゃるが、日立はご案内の通りエネルギー、原子力、核燃料、サイエンス、イノベーションといったすべてに会社として非常に強く関わっている。新むつ小川原株式会社について、経団連会長というキャパシティだけでなく、日立としてのキャパシティでも色々と支援いただけるのではないかと期待している。

冒頭申し上げたとおり、むつ会社は、今まではなんとか身を縮めて細々と黒字経営を続けてきたといえるように思う。しかし改めて考えれば、むつ会社は戦略的な利点を持った企業であり、経営の仕方によっては大きく発展できる可能性がある。そういった中で

今このような経営をし、本当に素晴らしい成績を上げていただいているが、さらなる前向きな発展を期待したい。

私も2年半前に現地を見せていただき、国にとってのむつ小川原開発地区の戦略的価値を実感した。核燃料サイクルの基地は日本にとって必須の機能を担っていただいている。それから原油の貯蔵基地、大規模な太陽光や風力を含めた発電の機能、色々なサイエンス、イノベーションの拠点も誘致している。まさに国の先端を走る機能を司る拠点だと実感した。

そこで、各地域の経済連合会の皆さんにできるだけ見に行くように言っていて、去年だけでも四国経済連合会と中国経済連合会の方に見ていただいた。後で聞いたらみんなびっくりしたと言う。みんな、むつ小川原という会社は知っているが、何をしているかは知らない。帰ってきて、改めて大変な仕事をしている、色々な可能性があると言う。岩谷産業も行っていただいている。ぜひ水素はやっていただきたいし、水素を含めたエネルギー総合戦略拠点というような、大きなポテンシャルを持った地区だと思う。これだけの経営資源が揃った場所は本当にはないのではないかと改めて思う。

ミッションを新会長に引き継いでいく。経団連としても、是非今年ないし近いうちに訪問を継続するように引き継いでおくので、むつ会社にも、色々な形で連携しながら、積極的な経営をしていただくようお願いを申し上げたい。

本当に皆さんありがとうございました。引き続き、むつ会社の発展に向けて、支援いただきますようお願い申し上げます。今日は少し時間があるが、これをもって経営諮問会議終了とさせていただきます。

**薄井社長**：最後に会長に拍手を送りたいと思う。どうもありがとうございました。

以上